

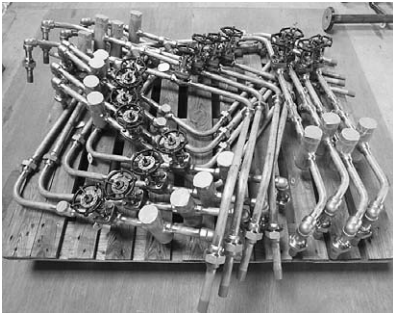
我が社の得意技 ④  
**挑戦が培った高度な溶接技術**

株式会社ダイテック (禎瑞)

溶接。それは2個以上の部

材の接合部に、熱または圧力、溶加材を加えることで、連続性を持たせた一つの部材にする接合方法である。だが、繋ぎ合わせる部材は、鉄鋼、ステンレス鋼、アルミ合金、チタンなど、さまざまな特性を持った金属であり、その形状や厚みもさまざまである。また、溶接の仕上がりは、気温や湿度、ほこりなどの環境にも大きく左右される。溶接士たちは、幅広い経験とそれらが導く勘により、熟練した高い技能のもと、溶接を行って

いく。溶接とは正に匠の仕事である。



▲高精度な溶接製品

■ 培われてきた溶接技術

この溶接を専門に行う企業が西条にある。社名は(株)ダイテック。平成15年に清水大吾社長が創業した同社は、社長をはじめ30代の社員で構成される若い企業である。

主な顧客は、発電、工業用プラントの施工会社、半導体製造装置部品、医薬品等製造装置などのメーカーであり、一般溶接工事をはじめ、真空配管やステンレス製サニタリー配管など、精度と品質を要求される配管溶接を手掛けている。また、他社が敬遠する利益のない一品生産や、複雑かつ高精度な溶接、チタンやハステロイなどの難加工素材の溶接にも積極的に取り組んでおり、独自の技術を磨くことで同業他社との差別化を図ってきた。

このようなチャレンジ精神や、技術、きめ細やかな仕事は、顧客からの高い信頼を得るに至っている。「他社がやらない仕事を、最高の品質で

提供する」これが清水社長の流儀である。



▲品質を保つ厳しいチェック

■ 技術を高める飽くなき探求

しかし、他社が敬遠する難度の高い仕事はそう簡単ではない。特にチタンなどの難加工素材の溶接に関しては、確たる基準もなく、企業のノウハウや社内基準により行われており、溶接方法は企業秘密とされている。同社は現在、チタンの溶接技術確立を図るため、愛媛大学との共同研究や、チタン溶接に高い知見を持つ専門家による指導を仰ぐなど、日々研鑽に励んでいる。

■ 連携を活かした新たな試み

一方、新たな事業もスタートしている。現在、大手メーカーの海外移転が進み、製造

業の下請事業者は、受注が減少するなど厳しい状況に直面している。そのような中、同社は、市内企業2社と連携し、設計から加工、溶接までの一貫生産を可能とする共同受注体制を構築することで、さまざまな顧客要望への対応やコストの削減、短納期の実現をめざしている。先般、この取り組みが、国の「特定下請連携事業」として認定されることとなり、今後、早期の事業化が期待されている。

「四国西条に(株)ダイテックがある。そう言ってもらえるようにならないといけない」清水社長の挑戦は続く。



▲挑戦を続ける清水社長

サイクスでは、地域企業の挑戦に対し、多方面から積極的にサポートしてまいります。皆さまもぜひ、ご利用ください。

サイクスからの事業案内  
のぞいてみませんか  
異業種交流会うちぬきサロン

サイクスでは、毎月第2月曜日に異業種交流会「うちぬきサロン」を開催しています。地域産業振興のエネルギーを生み出す場所として、毎回約100人もの産業人が参加。業種や分野は不問。皆さんのお越しをお待ちしています。

【10月開催予定】

■ 日時 10月6日(月)  
18時～20時30分

■ 場所

サイクス1階交流サロン

■ 参加費 2000円

※G・S・I・C・S会員企業等は1000円

■ 申込み・問合せ

産業情報支援センター

TEL 0897-5310010



▲新しい創造の熱気が集まる場所